

子ども・若者支援の現状について

～子ども・若者応援センター、ひきこもり地域支援センターの活動より～



朝晩の寒暖の差が身にしみる 10 月 20 日に第 160 回支援研が開催されました。今回はウエルとばた 2 階に事務所を構える 2 つのセンターの方に発言者になって頂き、「子ども・若者支援の現状について」をテーマに様々なお話を伺いました。



まずは、子ども・若者応援センター「YELL」の現状や取り組み等について、相談員の長谷川理恵さん、戸内智子さんのお二人からお話ししていただきました。

まず長谷川さんからは、子ども・若者を取り巻く現状と「子ども・若者育成支援推進法」、「元気発進！子どもプラン」等の説明がありました。

ニートやひきこもり、不登校などの悩みを抱える子どもや若者の支援をしていくには、今ま

での縦割りの対応では限界があり、横のつながりでの対応が求められ、ネットワークの整備が進められています。

その中で YELL は昨年 10 月 6 日に開設されました。社会生活を円滑に営む上で困難を抱える子どもや若者の育成支援のよろず相談窓口として、総合相談・助言・情報発信を行っているとのこと。

ネットワークについては、子ども・若者に関係している機関で、「北九州市子ども・若者支援地域協議会」を設け、毎月 1 回会合を開き、解決が難しい問題を共有しながら、就業・就学に向けて支援を行っているとの説明がありました。

次に戸内さんから、若者が YELL に来所されてから、就職するまでの支援経過などをお話し頂きました。事例をもとにしたお話しは大変わかりやすく、参加者に伝わったことと思います。



続いて、ひきこもり地域支援センターを運営されている「NPO 法人 STEP・北九州」理事の田中美穂さんから、ひきこもり地域支援センターの事業概要と、センターで開催しているイベント・講座等のお話を伺いました。

ひきこもり地域支援センターは、一昨年の 10 月に開設された、名前の通り「ひきこもり」に特化した専門機関で、不登校児に関する市民活動がもとになってできてきたものです。

センターでは「ゆるやかに、確実に、今できることを始めて行きましょう」のスローガンのもと、「ホップ：相談支援」「ステップ：ひきこもりしているそのままの自分を受け止めてくれる地域活動、イベント、講座等の紹介」「ジャンプ：専門的な関係機関の紹介」のながれをもとに支援しているとのこと。

今後の課題として、若者には所属や居場所等があることが重要であり、インフォーマルな地域での居場所作りが必要なので、センターだけではなく、地域の中に若者を支援するネットワークを広げていきたいと考えているとのこと。実際、地域の方々がボランティアで、地域支援ネットワーク「縁が輪（えんがわ）ネットワーク」に登録されていて、イラスト部や写真部、高卒認定の学習会などの様々な講座が開かれているとのこと。

田中さんの言葉で特に印象的だったのは、ひきこもりの若者と接する際には必ず『出会ってくれてありがとう』という気持ちで接していることです。田中さんは若者に出会い、当初は知識もなく何もできない自分をはがゆく思っていました。その若者が自分と関わる中で少しずつ成長していく姿を見届けられることに喜びを感じた体験が、この言葉になっているようです。そして今後も「草の根の支援」をモットーに、「ほっと」できるような支援をしたいとのことでした。



もし、皆さんの身近に悩みを抱えている子どもや若者がいたら、ウエルとばたの 2 階を紹介されれば、何らかの糸口が見つかるかもしれません。

この 2 つのセンターは、昔よくあったご近所の「お醤油を借りられる間柄」にあります。今回の支援研では、このつながりが支援に必要なことを改めて教えて頂きました。

尚、今回の参加者は 31 名。その内 9 名の新規の方にご参加頂きました。

